

2023年度 文学部聴講生

講義要項

(西洋史学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2023.4 - 2024.3

目 次

| 科目No | 専攻 | 漢字科目名 | 教員氏名 | 学期名称 | 曜日名称 | 時限名称 | ページ番号 |
|-------|------|----------------------|--------|------|------|------|-------|
| E2301 | 西洋史学 | 西洋史概説 A | 杉崎 泰一郎 | 前期 | 水 | 1時限 | 3 |
| E2302 | 西洋史学 | 西洋史概説 B | 佐々木 真 | 後期 | 水 | 1時限 | 5 |
| E2303 | 西洋史学 | 西洋古代史／西洋古代史 A | 松原 俊文 | 前期 | 水 | 3時限 | 7 |
| E2304 | 西洋史学 | 西洋中世史／西洋中世史 A | 青山 由美子 | 前期 | 月 | 2時限 | 10 |
| E2305 | 西洋史学 | 西洋近世史／西洋近世史 A | 野々瀬 浩司 | 前期 | 金 | 3時限 | 12 |
| E2306 | 西洋史学 | 西洋近代史／西洋各国史（4） A | 石橋 悠人 | 前期 | 火 | 1時限 | 15 |
| E2307 | 西洋史学 | 西洋現代史／西洋近現代史 A | 堀内 隆行 | 前期 | 火 | 1時限 | 17 |
| E2308 | 西洋史学 | 西欧史／西洋近世史 B | 佐々木 真 | 後期 | 水 | 2時限 | 19 |
| E2309 | 西洋史学 | 中欧史／西洋各国史（5） | 舟橋 倫子 | 後期 | 月 | 2時限 | 22 |
| E2310 | 西洋史学 | 南欧史／西洋各国史（3） B | 黒田 祐我 | 後期 | 火 | 5時限 | 25 |
| E2311 | 西洋史学 | 東欧・北欧史／西洋各国史（2） B | 飯尾 唯紀 | 後期 | 木 | 1時限 | 28 |
| E2312 | 西洋史学 | 南北アメリカ史／西洋近現代史 B | 武田 和久 | 後期 | 水 | 1時限 | 31 |
| E2313 | 西洋史学 | 西洋テーマ史(1)／西洋各国史（3） A | 白川 耕一 | 前期 | 金 | 2時限 | 34 |
| E2314 | 西洋史学 | 西洋テーマ史(2)／西洋各国史（2） A | 鈴木 直志 | 前期 | 水 | 2時限 | 37 |
| E2315 | 西洋史学 | 西洋テーマ史(3)／西洋各国史（4） B | 広岡 直子 | 後期 | 火 | 5時限 | 39 |
| E2316 | 西洋史学 | 西洋テーマ史(4)／西洋古代史 B | 唐橋 文 | 後期 | 月 | 5時限 | 41 |
| E2317 | 西洋史学 | 西洋テーマ史(5)／西洋各国史（1） B | 杉崎 泰一郎 | 後期 | 火 | 4時限 | 43 |

科目名：西洋史概説A

担当教員：杉崎 泰一郎

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：水1

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-HT1-H101

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:39 更新者：AA0015

更新日時：2023-01-05 16:11:32

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

古代ギリシア・ローマから、長い移行期を経て中世に至る社会や文化の歴史を、広い視点と新しい学説に立って、文字と画像の史料を紹介しながら考察する。

科目目的

古代から中世にかけての西洋の歴史について、新しい視点を踏まえて理解を進める

到達目標

西洋史についての知識を得るとともに、考察する方法を学ぶ

授業計画と内容

1. ガイダンス
- 2 古代ギリシアのポリス：アテナイを中心に
- 3 共和政ローマの拡大
- 4 帝政ローマ
- 5 ローマ帝国の変質
- 6 ゲルマン人の移動
- 7 古代から中世へむかう歴史のふりかえり
- 8 中世の教会：教皇、司教、司祭など聖職者
- 9 中世の世俗権力者：王、諸侯、戦士
- 10 中世の農村
- 11 中世の都市と商業
- 12 ルネサンスの開花
- 13 中世から近世へ向かう歴史のふりかえり
- 14 まとめと総括

※大きな講義の流れは変わりませんが、各回のテーマは変更することもありますので、あらかじめご了承ください

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|---|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 70% 授業内容を十分に理解していること |
| レポート | 0% |
| 平常点 | 30% 毎回講義後に提出するコメントを出席とし、平常点とする。出席が3分の2に満たない場合はE判定とする。 |

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

受講者に随時質疑応答をする

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストはなし。レジュメを配布する。参考文献は授業のなかで適宜、紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 西洋史概説B**担当教員： 佐々木 真**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：水1

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-HT1-H102

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:39 更新者：AB3759

更新日時：2023-01-07 09:32:40

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

19世紀以降のヨーロッパ近代に成立したさまざまな思想や制度は、依然として今日の我々の社会の多くの部分を規定している。本講義では、国民国家や自由主義、資本主義など、ヨーロッパ近代に誕生した思想や制度についてトピック的に解説することを通じて、これらの思想や諸制度がどのような意味を持っているのか、また、それらが現代社会にどのような影響を与えているのかを解説する。

科目目的

この講義で学習する内容の多くは、高等学校の世界史や政治経済で触れたことのある内容である。だが、受講生は個々の事象についての知識を持っていても、それぞれがどのように関連しているのかを理解しているとは言いがたい。本講義では、西洋近現代史において重要な概念について解説することにより、この時代の特色を俯瞰できるようにし、その後の研究の基礎となる力を身につけることを目的とする。

到達目標

授業を通じて、西欧近代の特徴やその特徴と現代との関係を理解すること、また、それにより、今日の社会の仕組みや理念をよりよく理解し、現代を生きる力を養うことが最終的な目標である。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス・導入
- 第2回 近代の政治 (1) 絶対主義国家から国民国家へ
- 第3回 近代の政治 (2) ナショナリズム
- 第4回 近代の政治 (3) 国民国家形成：国民の定義
- 第5回 近代の政治 (4) 国民国家形成：国民の形成
- 第6回 近代の政治 (5) 近代における軍事
- 第7回 近代の経済 (1) 資本主義と経済的自由主義
- 第8回 近代の経済 (2) 経済統制をめぐって
- 第9回 近代の経済 (3) 社会主義
- 第10回 近代の思想 (1) 棲み分け・隔離・管理の思想
- 第11回 近代の思想 (2) 近代的家族とフェミニズム (1)
- 第12回 近代の思想 (3) 近代的家族とフェミニズム (2)
- 第13回 近代の思想 (4) 子供と学校
- 第14回 総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内容の理解度を判定するために、講義終了後に毎回小テストを実施する。小テストの受験にあたっては、授業の内容をよく復習すること。また、状況によっては、事前課題を出す場合もある。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 30% 毎授業後の小テストの成績

期末試験 70% 期末に筆記試験を実施する。

| | |
|------|----|
| レポート | 0% |
| 平常点 | 0% |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

小テストについて、毎回授業とは別に解説動画を配信する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。配布資料を中心に講義を進める。西洋近現代史の概説書を読んでから授業に出席することで、講義内容に対する理解を深めることができる。初回授業で概説書の一覧を配布する。また、各講義ではそれぞれのトピックに関わるより専門的な著作・論文を紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 西洋古代史／西洋古代史A**担当教員： 松原 俊文**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：水3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-WH1-H301

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:42 更新者：AB4886

更新日時：2023-01-07 15:54:37

履修条件・関連科目等

高校「世界史B」（2022年度以降「世界史探求」）程度の古代ローマ史の知識を前提として講義を進めるので、開講前に高校教科書の該当箇所を読み直し、古代ローマ史の大まかな流れや出来事を掴んでおくことが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ローマ帝国は古代世界における西半球最大の国家であり、西ヨーロッパから中近東、黒海沿岸から北アフリカにまたがる広大な地域を版図に含んでいた。ローマの影響下にあった地域では、その物質文化のみならず、制度やシンボリズムといった精神文化も現在に至るまで様々に受容されている。ゆえに当該地域を学ぼうとする者にとって、「ローマ」は一度は通らねばならない道であろう。本講義では、共和政期、共和政から帝政への過渡期、帝政期それぞれから、初学者にも比較的なじみのあるローマ史上のテーマを取り上げ、その問題点を検証する。

科目目的

古代ローマ史に関する重要なテーマを、教科書や参考書から一歩踏み込んで考える能力を習得することを目的とする。

到達目標

本授業は、以下を到達目標とする。

- ・ 古代ローマ史を例に、「歴史はどのようにして作られるのか」を理解できるようになること。
- ・ 同時代の証言や史料に含まれている問題を認識できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 古代ローマ史の概要と問題点 1：ローマ史の時代区分（講義ガイダンス含む）
- 第2回 古代ローマ史の概要と問題点 2：ローマ史概略
- 第3回 古代ローマ史の概要と問題点 3：後代に生まれた「ローマの歴史」
- 第4回 「共和政ローマ史」の誕生 1：「共和政ローマ史」の情報源
- 第5回 「共和政ローマ史」の誕生 2：共和政ローマの文化的記憶
- 第6回 「共和政ローマ史」の誕生 3：家伝と共和政ローマ史
- 第7回 「共和政ローマ史」の誕生 4：膨張し続ける過去
- 第8回 アウグストゥスの元首政像 1：元首政とは何か
- 第9回 アウグストゥスの元首政像 2：共和政の復活？
- 第10回 アウグストゥスの元首政像 3：元首政の成立？
- 第11回 ローマの平和とは何か 1：共和政期の戦争と平和
- 第12回 ローマの平和とは何か 2：「平和」か「支配」か
- 第13回 ローマの平和とは何か 3：人類がもっとも幸福で繁栄した時代？
- 第14回 総括・まとめ

（授業の進み具合によって、スケジュールの調整やテーマの増減を行う場合がある）

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業後は配信された資料を再読し、その内容についてどのような講義を行ったか復習すること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・ 毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|--|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 60% 最終授業日に教場試験を実施する。講義内容を踏まえた解答であるかどうかを評価する。 |
| レポート | 0% |
| 平常点 | 40% 教場授業への参加度で算定する。 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

manabaの掲示板や個別指導（コレクション）で質問や提言等があった場合は、個別にフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。講義のテーマごとに資料を配信する。

その他に人名や地名に関する一般的な参考文献として：

- ・ バウダー編『古代ローマ人名事典』『古代ギリシア人名事典』 原書房、1994年
- ・ タルバート編『ギリシア・ローマ歴史地図』 原書房、1996年
- ・ 松原國師『西洋古典学事典』 京都大学学術出版会、2010年
- ・ Hornblower, S., Spawforth, A. (eds.), Oxford Classical Dictionary (4th ed.), Oxford, 2012.
- ・ Cancik, H., Schneider, H. (eds.), Salazar, C. F. (Eng. ed.), Brill's New Pauly, Leiden, 2002-2010.
- ・ Gagarin, M. (ed.), The Oxford Encyclopedia of Ancient Greece and Rome, Oxford, 2010.

オフィスアワー

その他特記事項

- ・ 資料として原典の邦訳テキストや図版は配信するが、講義を聴いてノートを取ることが必須である。
- ・ manabaからのメールの受信設定をして、コースニュースや個別指導（コレクション）による教員からの連絡をすぐに確認できるようにすること。

参考URL

備考

科目名: 西洋中世史／西洋中世史A

担当教員: 青山 由美子

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H302

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:42 更新者: AC5614

更新日時: 2023-01-06 18:43:59

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

ヨーロッパ中世史について、主要なトピックを中心に、史料の日本語訳に触れながら、学びます。

科目目的

受講生の皆さんが、ヨーロッパ中世史に対する認識を深めるとともに、主要なトピックに対する各自の見解をまとめられるようになることを目的としています。

到達目標

- ・ヨーロッパ中世史の主要なトピックについて、その概要を理解し他者に説明できるようになること。
- ・関連する史料の内容を理解し、その解釈をできるようになること。

授業計画と内容

- 1 ガイダンス ヨーロッパ中世史のポイントも確認します。
- 2 ケルト文明
- 3 カール大帝
- 4 ノルマン征服
- 5 農村の暮らし
- 6 都市の暮らし
- 7 教会と聖堂
- 8 十字軍
- 9 聖地巡礼
- 10 スコットランドの独立
- 11 ジャンヌ・ダルク
- 12 異端審問
- 13 ペスト
- 14 まとめと総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|---|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 0% |
| 平常点 | 100% 毎回授業内で書いてもらうコメントについて、形式と内容の両面で評価します。 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業中に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 西洋近世史／西洋近世史A**担当教員： 野々瀬 浩司**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 金3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-WH1-H303

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:42 更新者：AD1164

更新日時：2022-11-26 23:16:44

履修条件・関連科目等

ヨーロッパの歴史に関連する科目ならどの科目でも積極的に履修してほしいです。特に中近世史の科目は、是非履修することをお勧めします。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では16世紀を中心にヨーロッパ全体の歴史を概観します。講義内容としては、中世キリスト教社会が動揺し、各地に主権国家が成立する以前の時代の歴史について、政治・社会・経済・宗教・思想・文化などの様々な視点から考察することを主眼としたいと思います。具体的にはルネサンス・宗教改革・対抗宗教改革・宗教戦争などについて講義します。基本的には幅広い地域を対象とするが、とりわけ西ヨーロッパを中心に言及したいと考えます。現在のところ、以下のようなテーマで授業を進めていく予定ですが、場合によっては若干変更することもあります。

- I 近世ヨーロッパ社会の特質
- II ルネサンス
 - ① イタリア・ルネサンス
 - ② 北方ルネサンス
- III 宗教改革と近代社会
 - ① ドイツの宗教改革とルター派の拡大
 - ② スイスの宗教改革（ツヴィングリのチューリヒ、再洗礼派の形成、カルヴァンのジュネーヴ）
 - ③ イングランドの宗教改革（ヘンリ8世、エドワード6世など）
 - ④ 対抗宗教改革（トリエント公会議、イエズス会など）
- IV 宗派対立と宗教戦争
 - ① シュマルカルデン戦争とアウクスブルクの宗教和議
 - ② ユグノー戦争とナントの王令
 - ③ 三十年戦争とウェストファリア条約

科目目的

近世ヨーロッパの歴史、特に16世紀の西洋史を学ぶことを通して、中世社会と近世社会との間の連続面についての理解を深めると同時に、その断絶面や中世から変化した側面を把握し、さらには近現代社会が形成された基盤を理解する。このことは、今日のヨーロッパ社会が抱えている諸問題、例えばスコットランドやカタルーニャの独立問題、宗派対立・宗教対立、様々な戦争観、個人と共同体の関係などの背景や起源をより深く理解することにつながる。以上のような内容を学ぶことが、本科目の目的である。

到達目標

上記の目的の達成のために、具体的には以下の目標を設定する。

- (1) ルネサンスと人文主義の意義と役割を学び、近代的な個人の成立過程を理解することができる。
- (2) 宗教改革の具体的経過とその思想的本質を学習することを通して、各宗派の思想的な相違や宗派対立の本質を把握することができる。
- (3) 宗派対立や宗教戦争の具体経過とキリスト教の戦争観を理解することによって、それから生まれた寛容思想の内実とその変遷への理解を深めることができる。

授業計画と内容

第1回 ガイダンス・導入：近世ヨーロッパ社会の特質

- (1) ルネサンス
- 第2回 ①：イタリア・ルネサンスⅠ
- 第3回 ②：イタリア・ルネサンスⅡ
- 第4回 ③：北方ルネサンス

(2) 宗教改革と近代社会

- 第5回 ①：ドイツの宗教改革とルター派の拡大Ⅰ
 第6回 ②：ドイツの宗教改革とルター派の拡大Ⅱ
 第7回 ③：スイスの宗教改革（ツヴィングリのチューリヒ）Ⅰ
 第8回 ④：スイスの宗教改革（カルヴァンのジュネーヴ）Ⅱ
 第9回 ⑤：イングランドの宗教改革（ヘンリ8世、エドワード6世など）
 第10回 ⑥：対抗宗教改革（トリエント公会議、イエズス会など）

(3) 宗派対立と宗教戦争

- 第11回 ①：シュマルカルデン戦争とアウクスブルクの宗教和議
 第12回 ②：ユグノー戦争とナントの王令
 第13回 ③：三十年戦争とウェストファリア条約Ⅰ
 第14回 ④：三十年戦争とウェストファリア条約Ⅱ 総括とまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業中に提示した参考文献の中から興味を持った書籍を選んで講読し、講義内容の理解を深めてください。随時多くの参考文献を提示します。図書館を積極期に利用してください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--------------------------------------|
| 中間試験 | 0% | 実施しません。 |
| 期末試験 | 85% | 講義内容に関連した範囲内で、学期末に対面で試験を行う予定です。 |
| レポート | 0% | 実施しません。 |
| 平常点 | 10% | 出席は毎回とります。 |
| その他 | 5% | 毎回ではないが、何回かリアクションペーパーを提出してもらった場合もある。 |

成績評価の方法・基準(備考)

試験の内容や形式については、授業中にアナウンスします。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
 その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

場合によっては、授業のなかでリアクションペーパーを書くための課題や見解を提出してもらいます。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

場合によっては、授業のなかでリアクションペーパーを書いてもらいます。

実務経験のある教員による授業

はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書（テキスト）は使用しません。毎回レジュメを配布します。参考図書としては、以下のものを推奨します。

参考書

- ①エルンスト・トレルチ著『ルネサンスと宗教改革』岩波文庫、1959年。
 - ②ピーター・バーク著『イタリア・ルネサンスの文化と社会』岩波書店、2000年。
 - ③野々瀬浩司著『ドイツ農民戦争と宗教改革』慶應義塾大学出版会、2000年。
 - ④ペーター・ブリックレ著『ドイツの宗教改革』教文館、1991年。
 - ⑤C. V. ウェッジウッド著『ドイツ三十年戦争』刀水書房、2003年。
 - ⑥ウルリヒ・イム・ホーフ著『スイスの歴史』刀水書房、1997年。
 - ⑦ベルント・メラー著『帝国都市と宗教改革』教文館、1990年。
 - ⑧マックス・ヴェーバー著『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、1989年。
 - ⑨P. H. ウィルスン著『神聖ローマ帝国：1495-1806』岩波書店、2005年。
 - ⑩J. ホイジンガ著『エラスムス』ちくま学芸文庫、2001年。
 - ⑪野々瀬浩司著『宗教改革と農奴制』慶應義塾大学出版会、2013年。
 - ⑫中野隆生・中嶋毅共編『文献解説西洋近現代史 I：近世ヨーロッパの拡大』南窓社、2012年。
 - ⑬R. W. スクリブナー、C. スコット・ディクソン共著『ドイツ宗教改革』岩波書店、2009年。
 - ⑭A. E. マクグラス著『宗教改革の思想』教文館、2000年。
- その他随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

近世ヨーロッパ史、特に16世紀の歴史に興味のある学生を歓迎します。できることならば、高校の世界史を十分に履修した学生が望ましいです。日本史で受験した学生は、世界史の教科書を事前に読んでください。また、理解の補助のために、短いビデオなどの視覚教材を使用することもあります。

参考URL

備考

科目名：西洋近代史／西洋各国史(4)A

担当教員：石橋 悠人

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：火1

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-WH1-H304

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:42 更新者：AA1733

更新日時：2022-12-05 15:43:26

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、近世・近代のイギリス史を「時間」という観点から多角的に捉え直すことにしたい。時間の観念とそれに関わる制度・慣習は、商取引、航海術、鉄道運行、労働など、社会経済の多様な側面を規定する根本的な要素であり、その歴史的な変遷を考える意義は大きい。この授業では、近代イギリスを具体的な対象としながら、時間意識の変化、労働や移動と時間との関係、時計技術の発達と正確化、時計と消費文化、時間の表象、帝国主義と時間規律、ヴィクトリア朝的価値観と時間認識、グリニッジ世界標準時の成立などの主題について論じる。

科目目的

近世・近代イギリスの政治・経済・社会・文化・国際関係と時間概念の関係について、基礎的な論点を理解することが目的である。

到達目標

時間概念の変化という観点から、近代イギリス史の流れを説明することができる。
産業革命や帝国主義などの世界史的に重要な出来事と時間意識の関係を説明することができる。

授業計画と内容

- 授業の予定
- 1. ガイダンス
- 2. 機械時計の誕生と時間秩序
- 3. 近世の時間秩序 時計産業
- 4. 近世の時間秩序 人々の時間の使い方
- 5. 経度計測と時間
- 6. 産業革命の始動
- 7. 産業革命と時間意識
- 8. 時間と帝国主義
- 9. 時間・宣教・帝国の文化
- 10. 標準時の誕生
- 11. 世界標準時の形成
- 12. グローバルな時間の変化
- 13. 交通・通信革命と時間
- 14. まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

| | | |
|------|------|--|
| 期末試験 | 100% | 授業内容に関する論述問題への回答の水準により評価する。(参照物の持ち込みは一切不可) |
| レポート | 0% | |
| 平常点 | 0% | |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業の最後に受講生からの質問やコメントの時間をとる。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

配布資料を中心に講義を進める。
講義に関わる参考文献等は、毎回の授業内、または、manabaで紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：西洋現代史／西洋近現代史A

担当教員：堀内 隆行

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：火1

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-WH1-H305

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:43 更新者：XEA303

更新日時：2022-12-19 16:27:09

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ナショナリズムと国家モデルのグローバル・ヒストリーを、担当者の専門である南アフリカの事例に即して論じる。まずこのテーマを、世界システム論からグローバル・ヒストリーへという研究史のなかに位置づける。次いで政治学者ベネディクト・アンダーソンのナショナリズムの4類型を振り返り、南アフリカが、これら4類型すべての展開してきた特異な国であることを確認する。さらに歴史家キース・ブレッケンリッジの生体認証国家の議論などに学びながら、指紋の管理にもとづく統治モデルが南アフリカから世界へ伝播したことを跡づけたい。

科目目的

この科目は、学生がナショナリズムと国家モデルのグローバル・ヒストリーに関する基礎的知識を修得し、歴史研究における理論と実践との関係について理解を深め、また現代世界を見る目を養うこと、さらに学位授与の方針で示す「幅広い教養」と「複眼的思考」を習得することを目的とします。

到達目標

この科目では、学生がナショナリズムと国家モデルのグローバル・ヒストリー、あるいは歴史研究における理論と実践との関係について他者に説明できるようになることを到達目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界システム論からグローバル・ヒストリーへ
- 第3回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ1：クレオール・ナショナリズム
- 第4回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ2：言語ナショナリズム
- 第5回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ3：公定ナショナリズム
- 第6回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ4：南アフリカにおける白人ナショナリズム
- 第7回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ5：植民地ナショナリズム
- 第8回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ6：ネルソン・マンデラとアフリカ人ナショナリズム
- 第9回 生体認証国家1：植民地インドにおける指紋
- 第10回 生体認証国家2：帝国主義
- 第11回 生体認証国家3：南アフリカにおけるガンディー
- 第12回 生体認証国家4：広がりと限界
- 第13回 生体認証国家5：アパルトヘイト
- 第14回 総括・まとめ：ナショナリズムと国家モデルのグローバル・ヒストリー再考

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で配られる関連資料に目を通して理解を深める。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 40% 授業内容に関する論述問題への回答の水準により評価する。

| | | |
|------|-----|----------------------------|
| レポート | 0% | |
| 平常点 | 60% | 毎回の授業で提出する小レポートの水準により評価する。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 参考文献
- ・堀内隆行『異郷のイギリス—南アフリカのブリティッシュ・アイデンティティ』(丸善出版、2018年)。
 - ・同『ネルソン・マンデラ—分断を超える現実主義者(リアリスト)』(岩波新書、2021年)。
 - ・キース・ブレッケンリッジ(堀内隆行訳)『生体認証国家—グローバルな監視政治と南アフリカの近現代』(岩波書店、2017年)。

オフィスアワー

その他特記事項

提出された小レポートのいくつかに対しては、次の授業の初めに担当者から返答やコメントをする。また、関連資料について授業中に担当者から学生へ質問することも多い。それゆえ、講義形式ではあるものの、学生との対話を盛り込んだ、ある程度の双方向性のある授業になるはずである。

参考URL

備考

科目名： 西欧史／西洋近世史B

担当教員： 佐々木 真

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H306

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:43 更新者： AB3759

更新日時： 2023-02-02 12:01:49

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近世フランスの宮廷

日本などの現代の立憲君主政国家では、宮廷の政治的な役割は制限され、行政府が政治の中心となっている。これにたいして、近世ヨーロッパでは、宮廷はひとつの政治の中心であったが、そのありかたは非常に複雑だった。そもそも中世以降の宮廷は王の家であり、それを機能させるような組織だったが、15世紀以降の領域国家の形成につれて、宮廷外に統治組織が形成されると、フランスでは宮内府Maison du Roiとして「政府」に吸収される傾向を示した。しかし、当時の政治は宮廷と分かちがたく結びついていたのであり、政府の優位（近代国家）の進展という理解は再考の必要がある。

また、ドイツの学者エリアスが『宮廷社会』（原著1969年）で高度に儀礼化されたものとして宮廷社会を描いたが、その点も今日では批判の対象となっている。これらの研究史も踏まえ、本講義ではフランスを中心に近世の宮廷のあり方について検討する。

科目目的

近世の宮廷のあり方を検討することにより、近世の国制、つまり国家や統治機能のありかたの特色を理解することを目的とする。

到達目標

宮殿において建築様式や内部を飾る芸術作品、儀礼が果たした役割について知ることにより、宮殿の特色を知るとともに、宮殿の検討からわかるヨーロッパ近世の国制の特色を理解することを目的とする。

授業計画と内容

- 第1回 はじめに
- 第2回 中世の宮廷と近世における王国の発展
- 第3回 宮廷の構造 (1) : 宮廷の組織
- 第4回 宮廷の構造 (2) : 宮廷を構成するメンバー
- 第5回 宮廷の構造 (3) : 宮廷における階層秩序
- 第6回 宮廷の構造 (4) : 宮廷と軍隊
- 第7回 ヴェルサイユ：ハードとしての宮廷 (1)
- 第8回 ヴェルサイユ：ハードとしての宮廷 (2)
- 第9回 ヴェルサイユ：ハードとしての宮廷 (3)
- 第10回 宮廷生活と儀礼：ソフトとしての宮廷 (1)
- 第11回 宮廷生活と儀礼：ソフトとしての宮廷 (2)
- 第12回 宮廷社会論再考 (1) : エリアス以降の研究の再検討
- 第13回 宮廷社会論再考 (2) : 新たな宮廷論へ
- 第14回 総括とまとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業終了後に内容に関するまとめや質問を記入するリアクション・ペーパーを集める。また、状況に応じて、事前に読むテキストを指定する場合もある。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|--------------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 80% 期末に実施するテストの点数。 |
| レポート | 0% |
| 平常点 | 20% リアクション・ペーパーの内容で評価する。 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

毎回、授業開始時あるいはビデオ配信でリアクションペーパーに対する解説や質問への回答を行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、配付資料を中心に授業を行う。参考文献については、授業中にリストを配布するが、とりあえず以下の2点を挙げておく。

(叢書・ユニベルシタス) 単行本 - 1981/3/1

ノルベルト・エリアス (波田節夫、中埜芳之、吉田正勝訳) 『宮廷社会』法政大学出版局、1981年。

J. ダインダム (大津留厚、小山啓子、石井大輔訳) 『ウィーンとヨーロッパヨーロッパに於けるライバル宮廷 1550～1780』

刃水書房、2017年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 中欧史／西洋各国史(5)

担当教員： 舟橋 倫子

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H307

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:43 更新者： AB5965

更新日時： 2023-01-08 17:50:26

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

ヨーロッパの主要な国としてはイギリス、フランス、ドイツなどの名がすぐに挙がる。しかし、英仏が台頭してくるのはようやく17世紀になってからである。それに対して西欧の中央に位置しているネーデルラント（ベルギー・オランダ・ルクセンブルク）は、5世紀にヨーロッパの中心となって以来、先進地域として大きな影響力を行使してきた。中世フランク王国の心臓部であり、十字軍の時代を先導し、英仏百年戦争の要となる繊維産業で空前の繁栄を謳歌し、豊かな北方ルネサンスが花開き、宗教戦争時には多様な人々を共同体のメンバーとして受け入れ、大航海時代にフランドル諸都市が世界経済の要となった。ヨーロッパの十字路に位置していたがゆえに繁栄もしたが、度々他国の侵略を受け、戦場にもなった。現在、国を超えた連帯と政策を実行する国際機関EUとNATOの本部がブリュッセルに置かれていることは、当該地域がヨーロッパの中心として機能していることを端的に示している。

本講義では、ベルギー・オランダに視点を定め、そこから見えてくるヨーロッパ史を多角的に考察する。この地域を理解することにより、複雑なヨーロッパ、さらには世界の問題がみえてくるのである。これらの国々は大国の狭間で翻弄されてきたからこそ、時に戦い、特に妥協と合意の道を探り、人と物の移動に柔軟に対応して寛容で多様性のある独自の社会を形成してきた。この地域の人は、自らの歴史を振り返るとき、しばしば「勇敢で寛容な」という表現を用いる。彼らは共同体を結成して近隣の大国と対等にわたりあい、都市や地域の自治を誇り、自由を愛し、他者を寛容に受け入れつつも、自由と自治を守るために他国の支配に対して勇敢な獅子のように戦った歴史があるからである。この授業では古代から近現代までのネーデルラントの歴史の分析から、外部に開かれた共同体であり続けることによって経済発展を実現させ、柔軟で多岐的な独自の社会集団を作り上げてゆくダイナミズムを検討する。

科目目的

世界や歴史を考える場合に、私たちは今現在の物差しに捉われて物事をみてしまいがちです。既存の概念や意識への刷り込みから自由に物事を見ることができたら、世界は新しい姿で私たちの目前に姿を現すことでしょう。現在の国家という枠組みからヨーロッパを理解しようとすると、そこからはみ出した部分を見落とししてしまいます。そのことによって総合的な歴史の把握が困難な状態を自ら作り出してしまふこととなります。このジレンマを抜け出すためには、ヨーロッパ全体の動き常に意識し、「現在」前提とする直線的な物の見方にブレーキをかけることが必要です。

この科目で対象とするネーデルラントは、ヨーロッパの十字路に位置し、合従連衡の要として何世紀にもわたって世界をリードしてきました。この地域に視点を定めた考察を行うことによって、他者との関係性の中で作り上げられてゆくヨーロッパの歴史の本質に迫ることができると考えます。西洋史学専攻科目の選択科目であるこの科目の学習を通じて、学生が新たな視点からヨーロッパ、そして世界を再発見することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・ベルギー・オランダという国の成り立ちや文化的な特徴について基本的な知識を習得すること。
- ・それらがヨーロッパや世界において、大きな影響力を持っていた理由を説明できること。
- ・ヨーロッパ社会を構成する地域や個人の人々のアイデンティティがどのようにして形成されてきたのかについて、ネーデルラントの視点から説明し、現代社会に求められる柔軟で多様な共同体モデルを提案できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 現在のベルギー・オランダ：地理的特徴と文化：人々の意識と日常生活：言語問題
- 第2回 古代から中世へ：ローマからフランクへ
- 第3回 フランク王国の中心地としての機能：多様な文化の結節点
- 第4回 封建制の成立と領邦の形成：地域社会の成立
- 第5回 低地地方の都市の発展
- 第6回 都市社会の諸側面：格差の拡大と救貧活動
- 第7回 ネーデルラントの政治的統一への道
- 第8回 百年戦争の時代：フランス・イギリスとの関係
- 第9回 15・16世紀のネーデルラント絵画
- 第10回 ブルゴーニュ家からハプスブルク家へ
- 第11回 ネーデルラント連邦共和国へ：16世紀後半ヨーロッパ国際政治の一大焦点
- 第12回 17世紀オランダ：黄金時代の経済と文化
- 第13回 絶対王政からベルギー独立へ
- 第14回 まとめ：既存の国家制度の向こうへ・未来への展望

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業は対面で行います。やむを得ない理由で出席できない学生に対しては、ハイブリット方式で授業の配信を行います。授業(およびmana)でレジメや参考資料を配布します。授業中(最後の5分間を作成時間にあてます)に毎回リアクションペーパーを提出して頂きます。感想や質問を書き込んで下さい。次の授業で質問をまとめて回答を提示し、補足の説明を行います。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 70% 最終授業において持ち込み可(自筆ノートと配布資料・レジメ)の試験を行います。～について説明しないという問題を複数出題し、各自が記述する形とします。授業内容を理解し、自分としての考察ができることが評価基準となります。

レポート 0%

平常点 30% 授業終了後に、毎回提出するリアクションペーパーを平常点とします。授業内容のまとめという受動的なものではなく、授業に対する自身の考えや感想という主体的な内容を書くことが評価基準となります。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特にテキストを指定しない。毎回レジュメと参考資料を配布する。参考文献についてもその都度紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

質問は直接受けませんが、リアクションペーパーで提出してもかまいません。manabaのお知らせや掲示板を学生との連絡方法として利用します。高校世界史程度の基礎知識があることを前提として授業を行います。試験も持ち込み可ですので、暗記が必要な授業ではありません。経済格差や社会福祉、差別や言語問題、食文化や美術史などの具体例を色々取り上げて授業を進めますので、様々なことに興味を持って授業に臨んでくれることを期待します。

参考URL

備考

科目名： 南欧史／西洋各国史(3)B

担当教員： 黒田 祐我

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 火5

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H308

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:43 更新者： AD0662

更新日時： 2023-01-09 16:46:36

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

地域からみるスペイン史の諸問題

現在のスペインとポルトガルが位置するイベリア半島は、南北ではヨーロッパ大陸とアフリカ大陸との、東西では地中海圏と大西洋圏とが十字に交錯する、まさに異なる文明、異なる宗教や文化がぶつかり合いながら独自の諸文化がはぐくまれる場であり続けた。

- 1) 本講義の前半部分においては、古代から現代にかけて、どのような歴史をたどって現在のスペインという国民国家が成立するにいたったのかを通史的に論じる。
- 2) 後半部分においては、まずイベリア半島の地理的特徴を確認しながら現在のスペインを構成している地域ごとの歴史の展開、地域文化の独自性あるいは特殊性を分析しながら、スペインという「くに」がもつ特魅力と可能性について論じる。

科目目的

我々が所与の政治単位とみなしている「国民国家(英語のNation-State, スペイン語のEstado-Nación)」は、近現代という時代に固有の歴史的発明に過ぎず、この政治単位を自明のものとする、現在のスペインの政治状況や、諸問題を理解することができない。

その特殊な地理的条件によって、「西洋」「東洋」「ヨーロッパ」「アジア」のすべての要素を含みながら歴史を紡いできたイベリア半島の歴史と文化を学ぶことによって、西洋史のみならず世界の歴史のなかで人々が行って来た多様な営みに関する深い知識を修得することを本講義は目的としている。

到達目標

本講義は、以下を到達目標とする。

1. ヨーロッパ世界のなかでのイベリア半島がたどった歴史の全体像を把握できるようになること。
2. 「スペイン」という国民国家単位に縛られず、同国家内に併存している豊かな文化的多様性について、基礎的な知識を獲得すること。

授業計画と内容

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | はじめに ～イベリア半島史のダイナミズム |
| 第2回 | 古代の歴史 |
| 第3回 | 中世の歴史(1) ～カスティーリャ王国～ |
| 第4回 | 中世の歴史(2) ～アラゴン連合王国とナバーラ王国～ |
| 第5回 | 中世の歴史(3) ～アンダルス(イスラーム・スペイン)～ |
| 第6回 | 近世・近代の歴史 ～栄華と没落～ |
| 第7回 | 現代の歴史 ～統合と分離をめぐる～ |
| 第8回 | 「スペイン」の地理的多様性 |
| 第9回 | 地域の歴史と文化(1) ～カタルーニャ・アラゴン・バレンシアをめぐる状況 |
| 第10回 | 地域の歴史と文化(2) ～カスティーリャをめぐる状況 |
| 第11回 | 地域の歴史と文化(3) ～バスクをめぐる状況 |
| 第12回 | 地域の歴史と文化(4) ～ガリシアをめぐる状況 |
| 第13回 | 地域の歴史と文化(5) ～アンダルシアをめぐる状況 |
| 第14回 | 総括：「スペイン」の来し方行く末 |

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

本講義は、以下の自己学修が要求される。

1. 事前にmanabaにアップされるレジメを各自ダウンロードして、目を通しておく。
2. 講義聴講後、要点を整理して、コメントシートを出す。
3. 各回の講義に加えて、適宜紹介される参考文献を各自で読み込んで、期末レポートの準備を行う。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 70% | レポート評価基準 ①問題設定、扱う具体的事例、結論との間に整合性があるか ②自らの見解を説得的に提示できているか ③参考文献を用いたのであれば、それが的確に明記されているか |
| 平常点 | 30% | 毎回のコメントシートの提出をもって評価する。 評価基準) 各回の内容をきちんと把握して課題に取り組んでいるか。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。

参考文献については、各回の授業で関連するものを適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

本講義は『高校世界史B』の基礎的な知識を前提として進められるため、未履修者は事前に世界史の流れを学習しておくこと。

参考URL

備考

科目名： 東欧・北欧史／西洋各国史(2)B

担当教員： 飯尾 唯紀

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 木1

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H309

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:44 更新者： AD0072

更新日時： 2023-01-11 00:15:37

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

題目「ヨーロッパ東部世界の展開と環境要因 一中・近世ハンガリー王国を中心に」

この講義では、中世から近世までのヨーロッパ東部をとりあげ、この地域の政治構造と経済発展、文化変容について理解を深めます。特に注目したいのは、自然環境というファクターが社会を動かす力についてです。工業化以前の世界では、自然環境（地形、河川、植生、気候など）の拘束力が、今日の世界とは比べ格段に大きく、想像以上に政治や経済、文化に影響を与えたと考えられるからです。

対象とする場所は、バルト海から黒海・アドリア海に挟まれた南北に広がる地域です。この地域の中核には中・近世にかけ、ハンガリー王国、チェコ王国、ポーランド王国が成立・発展していました。特に焦点を当てるのはハンガリー王国ですが、周辺世界との共通点や差異、影響関係についても吟味します。

近代化の起点となったヨーロッパ西部とは異なる空間の歴史を素材として、ヨーロッパ理解を見直す手がかりをえることがこの授業の狙いです。

科目目的

- ・この科目は、カリキュラム上、西洋史学専攻専攻科目群（選択科目）に位置づけられており、この科目の学習を通じて、学生がヨーロッパ東部の歴史的展開と前近代の環境要因の重要性について認識を深めることを目的としています。
- ・この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識」と「複眼的思考」を習得することを目的としています。

到達目標

- (1) ヨーロッパ東部地域の中・近世史について基礎的な知見をえる。
- (2) 工業化以前のヨーロッパにおける自然環境の歴史拘束性について、新しい研究成果を知る。
- (3) ヨーロッパ東部の歴史的展開を学ぶことにより、「ヨーロッパ近代」を相対化する視点を深める。

授業計画と内容

(1) 中・東欧世界の形成

- 第1回 インTRODクシヨン（ガイダンス、講義の基本視角）
- 第2回 時代と空間、登場人物
- 第3回 中世国家の形成
- 第4回 中世国家の展開

(2) 近世の政治と経済

- 第5回 ハプスブルクとオスマンの対立
- 第6回 政治・経済の見取り図
- 第7回 河川と地域社会

第8回 中間のまとめ（小テスト含む）

(3) 宗教と社会

- 第9回 中世末期の信仰世界
- 第10回 宗教改革と宗教寛容
- 第11回 帝国の宗教政策と宗派ネットワーク

(4) 文化の変容

- 第12回 文化と習俗—魔女狩りから考える
- 第13回 家族研究の新動向
- 第14回 展望：近世から近代へ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 25% | 前半の授業内容と提示された参考文献の内容を理解し、正確に問いに答えることができること。 |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 50% | 授業内容を理解した上で、各自の問題関心にひきつけて文献調査を行い、発展的にレポートを作成することができること。 |
| 平常点 | 25% | 授業内容を理解したリアクションペーパー(Manaba小テストで実施)を記入すること。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 【テキスト】
- ・レジメを配布する

【参考文献】

- 講義全般、背景理解に関わるもの

- ・南塚信吾（編）『ドナウ・ヨーロッパ史』（山川出版社、1999年）
- ・伊東 孝之，中井 和夫，井内 敏夫（編）『ポーランド・ウクライナ・バルト史』（山川出版社、1998年）
- ・『中欧・東欧文化事典』（丸善出版社、2021年）の関連する項目

○個別の主題にかかわる参考文献は、各回の授業中に紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 南北アメリカ史／西洋近現代史B

担当教員： 武田 和久

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 水1

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H310

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:44 更新者： AD0405

更新日時： 2022-11-18 16:25:40

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、ラテンアメリカをヨーロッパとの関連から捉えることで、二つの地域が、支配と被支配の関係、宗主国と植民地という上位・下位の関係のみならず、相互に影響を及ぼす双方向の関係であった点に注目し、グローバル化現象が著しく進展する今日の世界状況の発端を歴史的な観点からさかのぼって理解する。

科目目的

近年の歴史学界では、イギリス史、フランス史、ドイツ史など、いわゆるナショナル・ヒストリー（一国史）といった限定的な枠組を超えて、複数の国や地域にまたがり、また時間・空間的にも広い視野に立った歴史の捉え方、いわゆるグローバル・ヒストリー（地球史）が注目されている。鳥瞰的視点から歴史をみることは、異なる時空間で起きた出来事を比較分析する試みであり、人類の政治、経済、社会、文化活動が様々な分野に与えたインパクトを、長期的タイム・スパンから探求する試みである。

本授業で取り上げるラテンアメリカとヨーロッパは、いずれも大西洋に面するという点で共通している。そしてまさにこの特長が、両地域の歴史を決定づける大きな要因となったのである。コロンブスによるアメリカの「発見」（1492）以後、大西洋を媒介として、ヨーロッパとラテンアメリカとの間で、ヒト、モノ、カネの動きが活発に展開された結果、両地域は強く結びつき、相互に影響を及ぼす関係になったのである。こうした歴史の見方は、それぞれの地域の歴史を個別にミクロの視点からみるだけでは生まれてこない。必要なのは、異なる地域の歴史を、広域的にマクロの視点からとらえる鳥の目である。

またこうしたグローバルな視点からの歴史の見方は、従来の「中心」と「周縁」という歴史の見方を見直す試みでもある。一般に、スペイン、ポルトガル人の海外進出がラテンアメリカの植民地化の進展につながったとされ、ラテンアメリカは、政治、経済、文化的な中心であるヨーロッパに隷属する周縁地域とされてきた。しかし「相互に影響を及ぼす」と記したとおり、ヨーロッパとラテンアメリカとの関係は、こうした中心・周縁関係だけでは説明できない。特に文化に関して言えば、植民地化のプロセスを経て、ラテンアメリカがヨーロッパの諸影響を受けたことは間違いないが、同時にヨーロッパ側も、ラテンアメリカから様々な影響を受けていたのである。本授業では、16世紀から18世紀にかけての近代初期に展開したラテンアメリカとヨーロッパの歴史を俯瞰的に捉えることにより、両地域の相互関係から生み出された歴史のダイナミズムを学生諸君と探りたい。

到達目標

ラテンアメリカの理解には、他の地域で同時代的に展開されてきた歴史の知識が不可欠であること、また植民地と宗主国は、支配・被支配という単純な関係ではなく、文化や社会の面では相互作用的な影響関係に置かれていたことを理解し、コロンブスによるアメリカの「発見」以後、今日まで伝わる地球規模の歴史の展開を理解する。

授業計画と内容

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 グローバル・ヒストリーとは？
- 第3回目 大航海時代の幕開け
- 第4回目 アメリカの「発見」というインパクト
- 第5回目 剣と十字架
- 第6回目 インディオは人間か？—アメリカ先住民に対するスペイン人の眼差し—
- 第7回目 スペイン人がアメリカを領有する根拠とは？—サラマンカ学派について—
- 第8回目 ユートピア思想とキリスト教宣教
- 第9回目 キリスト教布教と社会的規律化—ラプラタ地域におけるイエズス会士の社会実験—
- 第10回目 アメリカ先住民にとっての征服とは？—征服された人々の声—
- 第11回目 植民地支配下のキリスト教美術
- 第12回目 大西洋を渡った工芸品—アメリカ先住民文化のヨーロッパへのインパクト—
- 第13回目 植民地空間における文化的アイデンティティの越境
- 第14回目 まとめ—グローバル・ヒストリーの未来—

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

世界史やグローバル・ヒストリーにかんする本を積極的に読んでおくこと。

成績評価にかかわるアカデミック・エッセイの執筆に必要な専門的な内容の文献を自ら探し出す力を養うために、次のサイトの使い方に慣れておくこと。 <https://ci.nii.ac.jp/>

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 80% | アカデミック・エッセイの体裁や内容。とりわけ、パラグラフ・ライティングができているかどうか、授業内容に加えて、専門的な観点から議論が展開されている文献(学術書や学術論文)も参照したうえでエッセイが書かれているかどうか。なおアカデミック・エッセイは学期中に数回執筆の予定。 |
| 平常点 | 20% | 授業への出席や授業内容へのコメントの程度や内容 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

「非常に優れており、他の学生が参照すべき、学ぶべき」と判断されたアカデミック・エッセイについては、担当教員よりその理由が授業時間内に解説される。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

本授業で使用するテキストは資料等の提示をもって代えることとする。

参考文献
歴史学の観点からラテンアメリカ地域を研究対象とした文献
網野徹哉『インカとスペイン帝国の交錯』講談社、2008年。

網野徹哉『インディオ社会史：アンデス植民地時代を生きた人々』みすず書房、2017年。
伊藤滋子『幻の帝国－南米イエズス会士の夢と挫折』同成社、2001年。
ウィリアムズ『コロンブスからカストロまで－カリブ海域史1492～1969－』川北稔〔訳〕岩波書店、1978年。
エリオット『旧世界と新世界－1492-1650－』越智武臣・川北稔〔訳〕岩波書店、1975年。
大貫良夫〔他監修〕『ラテンアメリカを知る事典』（新版）平凡社、2013年。
岡田裕成・齋藤晃『南米キリスト教美術とコロニアリズム』名古屋大学出版会、2007年。
岡田裕成『ラテンアメリカ－越境する美術－』筑摩書房、2014年。
落合一泰『トランス・アトランティック物語－旅するアステカ工芸品－』山川出版社、2014年。
川村信三〔編〕『超領域交流史の試み－ザビエルに続くバイオニアたち－』上智大学出版、2009年。
清水透『ラテンアメリカ歴史のトルソー』立教大学ラテンアメリカ研究所、2015年。
染田秀藤『大航海時代における異文化理解と他者認識－スペイン語文書を読む－』溪水社、1995年。
ハンケ『スペインの新大陸征服』染田秀藤〔訳〕平凡社、1979年。
ピコン＝サラス『ラテンアメリカ文化史－二つの世界の融合－』グスタボ・アンドラーデ、村江四郎〔訳〕サイマル出版会、1991年。
ベイリン『アトランティック・ヒストリー』和田光弘・森丈夫〔訳〕名古屋大学出版会、2007年。
増田義郎『新世界のユートピア』研究社出版、1971年。
松森奈津子『野蛮から秩序へ－インディアス問題とサラマンカ学派－』名古屋大学出版会、2009年。
レオン＝ポルティエヤ〔編〕『インディオの挽歌－アステカから見たメキシコ征服史－』山崎眞次〔訳〕成文堂、1994年。
ワシュテル『敗者の想像力－インディオのみた新世界征服－』小池佑二〔訳〕岩波書店、2007年。

グローバル・ヒストリー関連

クロスリー『グローバル・ヒストリーとは何か』佐藤彰一〔訳〕岩波書店、2012年。
ハント『グローバル時代の歴史学』長谷川貴彦訳、岩波書店、2016年。
水島司『グローバル・ヒストリー入門』山川出版社、2010年。

キリスト教史

ウィルケン『キリスト教一千年史：地域とテーマで読む』大谷哲ほか訳、上下巻、白水社、2016年。
コリンズ『キリスト教の歴史：2000年の時を刻んだ信仰の物語』小野田和子、川名公平、赤尾秀子訳、BL出版、2001年（多数の図版あり）。
マーテル『キリスト教史』佐藤正英監訳、ゆまに書房、2004年（多数の図版あり）。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

担当教員の研究歴や業績については次を参照。<https://researchmap.jp/read0203916>

備考

科目名： 西洋テーマ史(1)／西洋各国史(3)A

担当教員： 白川 耕一

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H311

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:44 更新者： AC7978

更新日時： 2023-01-13 17:51:09

履修条件・関連科目等

ヨーロッパにおける第2次世界大戦の歴史が授業テーマになりますので、以下の概説書を読んだうえで、受講することが望まれます。

木村靖二他著『世界の歴史 (26) 世界大戦と現代文化の開幕』(中央公論新社 2009年) (*原著は1997年)

油井大三郎他著『世界の歴史 (28) 第二次世界大戦から米ソ対立へ』(中央公論新社 2010年) (*原著は1998年)

さらに、本シラバス内の参考文献欄のベルギー、フランス、オランダに関する日本語文献のいくつかを読んだうえで、受講することが望まれます。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

題目「戦勝国? - 第2次世界大戦におけるフランス、ベルギー、オランダの経験」

歴史家トニー・ジャッドは「ヒトラーの死から60年、彼の戦争とそれがもたらした諸結果は歴史となりつつある。ヨーロッパの戦後は長く続いたけれども、それが最終的に結末を迎えようとしている」と述べました(同『ヨーロッパ戦後史(上)』(みすず書房 2008年(原著は2005年))。最近の歴史学研究では、戦闘終了から平和が訪れるまでの間の移行期を「戦後期」とよぶことがあります。ジャッドによれば、21世紀まで第2次世界大戦の「戦後期」が続いたことになるでしょう。しかし、ジャッドが言う、その「戦後期」が終了した21世紀、第2次世界大戦像をめぐる論争がヨーロッパ各地で噴出しています。第2次世界大戦における加害と被害の多様な局面が明らかになり、ヨーロッパにおける「過去の克服」は複雑な様相を呈しています。

本講義では、第2次世界大戦後のフランス、ベルギー、オランダを扱います。確かに3国は「先勝国」になりましたが、第2次世界大戦時には、ナチス・ドイツに占領され続け、ナチス・ドイツへの戦争協力を強いられ、自力で自らを解放できませんでした。抵抗運動、労働動員、ユダヤ人の迫害など事件を明らかにしながら、「戦勝国」としての国民共通の記憶がつくられていく過程に注目したいと考えています。

科目目的

現在、歴史像をめぐる厳しい紛争が各地で発生しています。それは、過去の見え方は決して変化しないものではなく、時代や人々の意識によって変化するからです。授業においては、ナチス・ドイツが一方的に支配し、被占領3か国が従属を強いられ、支配に抵抗したという一面的な見方はとりません。ナチスによって支配された社会における抵抗と順応の複雑な状況、またユダヤ人迫害にどのように現地の人々はふるまったのか、を明らかにします。3か国の違いも明らかにしていきたいと考えています。

到達目標

- (1) 西ヨーロッパ諸国にとっての第2次世界大戦史を説明することができる。
- (2) ナチス・ドイツによるヨーロッパ支配体制における各国の位置を説明することができる。
- (3) フランス、ベルギー、オランダにおけるユダヤ人迫害の違いを説明することができる。
- (4) 第2次世界大戦後、西欧の人々がどのように戦争を理解していたのか、説明することができる。

授業計画と内容

講義計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 1930年代までのベルギー、オランダ
- 第3回 1930年代までのフランス
- 第3回 ナチス・ドイツによる西ヨーロッパ占領：ヒトラーによるヨーロッパ支配
- 第4回 オランダにおけるナチ占領支配と抵抗
- 第5回 ベルギーにおけるナチ占領支配と抵抗
- 第6回 フランスにおけるナチ占領支配と抵抗
- 第7回 オランダにおけるユダヤ人迫害
- 第8回 ベルギーにおけるユダヤ人迫害
- 第9回 フランスにおけるユダヤ人迫害
- 第10回 解放：1944～1945年

- 第11回 「戦勝」がもたらす混乱―帰還した徴用工をめぐって―
- 第12回 ユダヤ人迫害と殺害の記憶
- 第13回 歴史において第2次世界大戦はどのように描かれているのか？
- 第14回 試験および解説

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
 授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

(1) 現在東アジアだけでなく、世界各地で歴史に関する論争が発生しています。それについては、下記参考文献の吉田、橋本の文献を参照にしてください。ホロコーストとスターリンによる大粛清を東欧の空間の中で把握しようとしたスナイダーの著書、迫害と殺害のメカニズムを現地社会のダイナミズムから論じようとした、野村、グロスの研究は重要である。以上の文献を授業進度に合わせて購読すれば、授業の理解はより深まる。第2次世界大戦期にユダヤ人殺害についてはヒルバークの総合的研究がある。授業進度に合わせて該当部分を読んで欲しい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 70% | 授業で扱った内容に関する理解を問う問題を出題する。(論述形式で1200字程度)。 |
| レポート | 0% | |
| 平常点 | 30% | 授業後に史料読解に関する課題を出題する(2回程度)。出題後10日以内に指定された方法で提出すること。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
指定しない。

参考文献

【フランス】

河野健二『フランス現代史（世界現代史19）』（山川出版社 1977年）
服部春彦・谷川稔編『フランス近代史—ブルボン朝から第5共和政—』（ミネルヴァ書房 1993年）
福井憲彦『フランス史（新版世界各国史12）』（山川出版社 2001年）
宮下雄一郎『フランス再興と国際秩序の構想』（勁草書房 2016年）
渡辺和行『ナチ占領下のフランス—沈黙・抵抗・協力』（講談社選書メチエ 1994年）
渡辺和行『ホルコーストのフランス—歴史と記憶—』（人文書院 1998年）
ジャン・デフラヌ（長谷川公昭訳）『ドイツ軍占領下のフランス』（白水社 1988年）
ジャン・ドフラヌ（大久保俊彦他訳）『対独協力の歴史』（白水社 1990年）
ロバート・パクストン（渡辺和行、剣持久木訳）『ヴィシー時代のフランス：対独協力と国民革命』（柏書房 2004年）
マルク・ベルジェール（宇京頼三訳）『コラボ＝対独協力者の粛清』（白水社 2019年）
J=F. ミュラシオル（福本直之訳）『フランス・レジスタンス史』（白水社 2008年）

【オランダ、ベルギー】

栗原福也『ベネルクス現代史（世界現代史21）』（山川出版社 1982年）
桜田美津夫『物語 オランダの歴史—大航海時代から「寛容」国家の現代まで—』（中公新書 2017年）
松尾秀哉『物語 ベルギーの歴史—ヨーロッパの十字路』（中公新書 2014年）
森田安一『スイス・ベネルクス史（新版世界各国史14）』（山川出版社 1998年）
永岑三千輝「ドイツ第3帝国の占領政策と民衆意識の変遷—オランダ、ベルギー、ルクセンブルクを中心に」『経済学季報（立正大学経済学会）』（第41号第1号 1991年9月）37～110頁
永岑三千輝「ドイツ第3帝国のオランダ・ベルギー占領とその軍事経済的利用」『経済学季報（立正大学経済学会）』（第40号第4号 1991年6月）29～74頁

【過去への取り組み】

石田勇治他編『想起の文化とグローバル市民社会』（勉誠社 2016年）
橋本伸也『記憶の政治—ヨーロッパの歴史認識紛争』（岩波書店 2016年）
宮川裕章『フランス現代史 隠された記憶—戦争のタブーを追跡する』（ちくま新書 2017年）
吉田徹『アフター・リベラル—怒りと憎悪の政治』（講談社現代新書 2020年）
キース・ロウ（田中直訳）『戦争記念碑は語る—第2次世界大戦の記憶に囚われて』（白水社 2022年）

【外国語】

Tony Kushner, The Holocaust and the Liberal Imagination, Blackwell: Oxford 1994
István Deák, Europe on Trial. The Story of Collaboration, Resistance, and Retribution during World War II, Routledge: New York/ London 2015
Pieter Lagrou, The Legacy of Nazi Occupation. Patriotic Memory and National Recovery in Western Europe, 1945-1965, Cambridge UP 2000
Bob Moor(ed.), Resistance in western Europe, Berg: Oxford/ New York 2000
Peter Romijn, Der lange Krieg der Niederlande. Besatzung, Gewalt und Neuorientierung in den vierziger Jahren, Wallstein: Göttingen 2017.
Jean-Michel Veranneman, Belgium in the second World War, Pen & Sword: South Yorkshire 2021
Nico Wouters, Mayoral Collaboration under Nazi Occupation in Belgium, the Netherlands and France, 1938-1946, Palgrave Macmillan 2016

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：西洋テーマ史(2)/西洋各国史(2)A

担当教員：鈴木 直志

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：水2

配当年次：1～4年次担当

科目ナンバー：LE-WH1-H312

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:44 更新者：AA1439

更新日時：2022-12-28 17:47:52

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

授業のテーマは「広義の軍事史から見たヨーロッパの歴史」。
 広義の軍事史とは、軍隊を一つの社会集団として位置づけ、その上で軍隊と国家や社会との相互関係を問う研究である。この授業では、この広義の軍事史の観点に基づいて、中世から現代までのヨーロッパ史の概略を講義する。

科目目的

西洋史に関する基礎的知識を修得する。
 軍隊と社会の相互関係について歴史的な視座から考える。

到達目標

ある特定のテーマ（軍隊・戦争）から西洋史の大まかな流れを把握することができる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 封建制と騎士
- 第3回 中世世界の変容
- 第4回 中世の戦争
- 第5回 火器の発達と近世軍事革命
- 第6回 近世の軍隊と社会
- 第7回 近世の戦争
- 第8回 近代国民軍の成立
- 第9回 戦争の産業化
- 第10回 総力戦の先駆け
- 第11回 第一次世界大戦
- 第12回 第二次世界大戦
- 第13回 冷戦期以降の軍隊・戦争と社会
- 第14回 総括とまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 60% 授業内容が正しく理解されているかどうか
- レポート 25% 授業中に指定された提出物
- 平常点 15% リアクションペーパー提出
- その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

リアクションペーパーの提出が3分の2に足りなかった場合はE評価とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
教科書は指定しない。参考文献は開講時に指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

提出されたリアクションペーパーのいくつかに対しては、次の授業の始めにこちらから返答やコメントをする。それゆえ、講義形式ではあるものの、学生との対話を盛り込んだ、ある程度の双方向性のある授業になるはずである。

参考URL

備考

科目名：西洋テーマ史(3)／西洋各国史(4)B

担当教員：広岡 直子

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：火5

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-WH1-H313

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:44 更新者：AB3280

更新日時：2022-12-25 03:39:44

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ロシアにおける近代化を医療という観点から考察する。民衆の日常における治療と介護に近代医療がどのように受容されていったのかを深く理解するために、ロシアの風土とロシア正教の問題もとりあげる。

ロシアは、かつて日本と同じ後発資本主義国と位置付けられていたが、欧州とアジアの両面をもつユーラシア大陸を占有しており、文化・制度は日本とは大きく異なる側面を持っている。さらには、1917年のロシア革命があり、1991年にソ連が崩壊するまで社会主義体制を築いてきた。本講義では、ロシア革命前までの身分制、欧州の科学の発展、医療制度とイデオロギー、国家・地方自治のありかた、など多岐にわたる内容を取り扱うが、いずれも、医療から近代化とロシア社会の歴史的諸問題を理解するための手がかりをえるところにポイントがある。

科目目的

ロシア近代化のプロセスを医療という問題をテーマにして深く掘り下げることで、新しい歴史的認識・方法論を獲得することを目的とする。

到達目標

1. ロシア社会のわかりにくさを医療からひもとく。
2. 授業で得られた視点を他地域にも応用して、新しい歴史的な視座を獲得する。

授業計画と内容

- 第1回 イン트로ダクション：ロシアの風土
- 第2回 ロシア文化の基層としてのロシア正教
- 第3回 民衆のご利益イコン
- 第4回 民衆の医療空間：ズナーハリとカルドゥーン
- 第5回 近代以前の医療：スキタイからクジマー・デミアンまで
- 第6回 近代以前の医療：十字行・誓願と呪文
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 欧州近代医学の導入と医療の制度化への（困難な）道：軍事化と帝国化を支える「医療」
- 第9回 医療における国家の役割：ピョートル大帝からエカテリーナ大帝へ
- 第10回 ロシアにおける乞食愛と「慈善活動」：英国との比較
- 第11回 フェリシェールとはだれか：問題の所在
- 第12回 飢餓と感染症および乳児死亡率の高さ
- 第13回 帝政期ロシアにおける医師と医療行政
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

テキストはないが、事前に印刷を指示したレジメを印刷（強く推奨）あるいは見られるようにしておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

| | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 40% | 学習したテーマが理解できているかを評価する。(レポートの形式で提出) |
| 期末試験 | 40% | 主要なテーマや事例が理解できているか、学んだことを現在や未来への考察に活かす視点があるかを評価する。(レポートの形式で提出) |
| レポート | 0% | |
| 平常点 | 20% | コメントの提出等によって、能動的な受講を評価する。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

自主学習支援としてe-learningシステムを使って当該科目の知識を深めることができる。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

パワーポイントで授業を進める。資料は授業前に掲示するので各自印刷をお願いする。講義に関わる参考文献等は、適宜授業で紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 西洋テーマ史(4)／西洋古代史B**担当教員： 唐橋 文**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 月5

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-WH1-H314

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:45 更新者：AA0720

更新日時：2022-11-07 22:10:15

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

古代西アジアの文字・歴史文書・文学の三つをテーマとして、それぞれ3回・5回・4回の授業で見ていく。まず文字（楔形文字とセム語のアルファベット）の成立と展開について概観した後、アッカド語などで書かれた代表的な歴史文書と文学作品を日本語ないし英語訳で読み、それらがどのような社会的・文化的・歴史的背景を持つのかを考察する。

科目目的

(1) 古代西アジアの文字に関する知見を獲得する。(2) 実際の文献資料の読解を通して古代西アジアの社会・文化・歴史について学習する。

到達目標

古代西アジアの文字がどのように成立し使用されたのか、また実際の文献資料がいかなる社会的・文化的・歴史的背景の下に書かれたのかを理解する。

授業計画と内容

01. ガイダンス：授業の進め方と古代西アジア史紹介
02. 楔形文字
03. 書記の教育
04. アルファベットの成立
05. シュメール王名表
06. シュメール王碑文
07. ウルナンマ法典・ハンムラビ法典
08. アマルナ書簡
09. 旧約聖書
10. 古代西アジアの女神たち
11. アトラ・ハシス（人類の創造と大洪水）
12. イナンナ・イシュタル女神神話群
13. ギルガメシュ叙事詩
14. まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|-----------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 70% 70点満点 |
| レポート | 0% |
| 平常点 | 30% クラスに対する積極的な参加・貢献度 |

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

出席率70%以上を前提に、期末試験と平常点(重要!)の合計によって成績評価を行う。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【参考文献】大貫良夫、前川和也、渡辺和子、屋形禎亮『人類の起原と古代オリエント』(世界の歴史1)中公文庫;小川秀雄、山本由美子『オリエント世界の発展』(世界の歴史4)中公文庫;山我哲雄『聖書時代史:旧約篇』(岩波現代文庫・学術98)岩波書店

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：西洋テーマ史(5)／西洋各国史(1)B

担当教員：杉崎 泰一郎

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：火4

配当年次：1～4年次担当

科目ナンバー：LE-WH1-H315

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:45 更新者：AA0015

更新日時：2023-01-05 17:11:00

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

西洋中世の王権と教会
ローマ帝国のキリスト教公認からカロリング期フランク王国の時代にかけて、王侯と教会とが密接に関わりながら独自の社会、文化、価値観を形成していったことを学ぶ

科目目的

キリスト教が公認された古代末期から、西ローマ帝国の崩壊とゲルマン諸国家の成立（とくにメロヴィング朝フランク王国）を経て、カロリング期の「西ヨーロッパ再統一」にいたる歴史を、聖俗権威の関わりに着目して理解する

到達目標

西洋中世の王権と教会の関係を通して、西洋文明の特質や他の文明や時代との違いについて理解し、それぞれの専門領域に生かす。

授業計画と内容

- 第1回：はじめに
本講義の目的と概要
 - 第2回：ローマ帝国におけるキリスト教の拡大
キリスト教の拡大、迫害、公認について
 - 第3回：キリスト教のガリア布教
西ローマ帝国の混乱期に、修道士や司教によってガリアにキリスト教が伝播
 - 第4回クローヴィスの洗礼の背景と意味
メロヴィング朝フランク王国はクローヴィスの洗礼によってローマの後継者へ
 - 第5回：メロヴィング朝フランク王国の拡大と教会
教会はメロヴィング朝フランク王国の統治に貢献
 - 第6回：メロヴィング朝の王妃と教会
クローヴィス妃クロティルドをはじめ、王妃の多くは教会保護にとりくむ
 - 第7回：カール・マルテルと新たな時代
イスラム勢力の拡大に対応したフランク王国の実力者カール・マルテル
 - 第8回：ピピンの即位とローマ教皇
カロリング朝フランク王国の成立と教皇の権威による正当化
 - 第9回：カール大帝とキリスト教帝国の成立
キリスト教帝国を目指したカール大帝
 - 第10回カール大帝の皇帝戴冠
皇帝戴冠をフランク王国、教皇、ビザンツの相互関係から考察
 - 第11回：カロリング・ルネサンス
ローマ文化とキリスト教文化と宮廷
 - 第12回カロリング期の修道院
修道院は王侯の寄進で豊かになり、社会、文化、経済の中心となる
 - 第13回ルートヴィヒ敬虔帝と教会
教会と修道院を保護したルートヴィヒ帝
 - 第14回：まとめ
- ※なお、授業の進捗状況や大学の方針変更などに伴い、内容を変更する場合があります。

授業時間外の学修の内容

- 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出

✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業後は、プリントや授業の内容を記したノートなどをよく読み返しておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|----------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 70% 授業内容を十分に理解していること |
| レポート | 0% |
| 平常点 | 30% 出席とリアクションペーパーの提出 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

毎回講義後に提出するコメントを出席とし、平常点とする。出席が3分の2に満たない場合はE判定とする。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

特定のフィードバックを行う予定はないが、授業時間内に理解が進むよう努める

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

✓ その他

実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

受講者に随時質疑応答を行う

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
毎回プリント等を配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考
